

日本鉄鋼協会記事

企画委員会

第5回委員会 開催日: 11月25日. 出席者: 栗田委員長, ほか 20 名.

1. ISO/TC 17 総会報告

9月30日~10月4日, デュセルドルフ(ドイツ)で開催され, 15カ国54名が参加した. 主要議題は①ISO規格の生産性向上—そのための方策 ②ISO/TC17/SC20の新設—SC5とSC6の解散 ③ISO/TC17/SC5の停滞work itemの処理方策 ④NDT規格作成のための指針 ⑤各Sub-Committee内での懸案事項の処理であった.

2. 製鉄所・研究所学生見学会報告

11月初旬に実施したが学生には大体好評を得た. 来年も今回の反省点を勘案し実施する予定である.

3. 第110回講演大会(新潟)報告

10月4~6日新潟大学で開催され19会場, 1日当り約1300名の参加者があつた.

編集委員会

第8回和文会誌分科会 開催日: 11月7日. 出席者: 坂尾主査, ほか 22 名.

1. 21件の論文審査報告がなされ, 掲載決定7件, 照会后掲載可9件, その他5件であつた.

2. 「鉄と鋼」第72年第3号(3月号)に論文14件, 技術報告1件, 解説3件, 技術資料2件掲載決定した.

第8回欧文会誌分科会 開催日: 11月1日. 出席者: 加藤主査, ほか 15 名.

1. 10件の原稿につき審査報告がなされ, 掲載可3件, 修正依頼6件, 返却1件であつた. また, 3件のNew Technologyにつき審査報告がなされ, 掲載可1件, 照会后掲載可1件, 修正依頼1件であつた.

共同研究会

第81回圧延理論部会 開催日: 10月31日~11月1日. 開催地: 鋼管・福山. 出席者: 中川部会長, ほか126名.

1. 形状, 板厚プロフィルの改善等を含み20件の論文発表があつた.

2. 日本鋼管(株)福山製鉄所若月薄板部長下記の特別講演があつた.

「福山における熱延技術の現状」

—2HOT 改造設備の概要—

—5CC-2HOTHDR 操業—

鋼板部会

第43回ホットストリップ分科会 開催日: 11月7~8日. 開催地: 新日鉄・室蘭. 出席者: 佐々木部会長, 藤原主査, ほか 83 名.

1. 操業成績(昭和60年5月~7月)

2. 共通アンケート「ロール」

3. 自由議題は各事業所より14件の発表があつた. 内6件がハイクロムロール関係. 又, 住金鹿島のインラインでのロール研削に関する報告に関し各社の関心が集まつた.

条鋼部会

第59回中小形分科会 開催日: 11月21~22日. 開催地: 合鉄・東伸(姫路). 出席者: 上村主査, ほか91名. テーマ研究

Aグループ: 自動化を含めた能率向上対策

Bグループ: 設備保全(センサを含む)体制について

Aグループでは, 生産能率の実績推移とその分析, 生産能率向上対策に関するこれまでの実施内容・今後の計画等が議論された.

Bグループでは, 各社の設備保全の体制, 修理計画, 運転休止の実状, 予備品管理, 合理化事例, 教育訓練等が議論された.

両グループ共昨今の厳しい経済情勢を反映して, 要員合理化に努力を払っている実態が明確にされた.

A, B 両グループ共各11件の自由研究発表があつた.

鉄鋼分析部会

第11回表面分析小委員会 開催日: 10月24日. 開催地: 鋼管・福山. 出席者: 大坪委員長, ほか11名.

1. 共同研究を終了したWGのまとめ及び学会発表について

○XPS 状態分析—ほぼ完了

○AES 定量分析—まとめ

○XPS 定量分析—まとめ

○イオンスパッタリング—追試結果まとめ

2. 共同研究経過報告

○AES 状態分析

○AES 定量分析

○GDS 分析

3. その他

第2回機器分析分科会 開催日: 10月24日. 開催地: 鋼管・福山. 出席者: 佐伯主査, ほか46名.

1. 発光分析による鋼中微量元素の定量精度について

2. ISIJ-201-1977の改訂WG

3. 各所の分析体制について

4. 各所自由報告

第2回化学分析分科会 開催日: 10月24日. 開催地: 鋼管・福山. 出席者: 針間主査, ほか52名.

1. 鉄鋼の原子吸光分析法JIS改正について

2. ほう素WG経過報告

3. りんWG経過報告

4. その他

第79回鋼中非金属介在物分析小委員会 開催日: 10月25日. 開催地: 鋼管・福山. 出席者: 仲山委員長代行, ほか 19 名.

1. 鋼中酸化物系介在物の抽出分離定量法に関する研究

- (1) 第7回共同実験試料に関する自発検討結果
- (2) 第7回共同実験結果の報告と審議
- (3) 第8回共同実験の進め方
- (4) その他

第12回ほたる石分析小委員会 開催日: 10月25日. 開催地: 鋼管・福山. 出席者: 岩田委員長, ほか 26 名.

1. 各 JIS 案文作成について
 2. その他
- ・ほたる石分析小委員会解散について

鉄鋼技術情報センター

第10回センター共同研究会 開催日: 11月14~15日. 開催地: 川鉄・千葉. 出席者: 雀部センター運営委員会委員長, ほか 100 名.

社内技術情報の管理体制を共通テーマとして, 7社より8件と, 自由テーマとして, SDI サービスの現況, 特許と技術情報の関係について2件の発表があつた.

この研究会後, 千葉製鉄所の見学を行つた.

図書資料委員会第14回 WG2 開催日: 11月7~8日. 開催地: 久呂保山荘. 出席者: 西垣チーフ, ほか11名.

1. 鉄共研資料索引 (含抄録) の入力原稿の作成について
2. その他

一書 評

DECHEMA 方式腐食防食実験工学

駒井謙治郎・日根文男・山川宏二・
山崎正八郎 共訳・編集

DECHEMA (Deutsche Gesellschaft für chemisches Apparatewesen) が定期的に開催している講義・実習セミナーに使用されているテキストの和文版であつて, 日本材料学会腐食防食部門委員会が, 同テキストの1970年版訳を使つて1977年以降毎年開催してきた実験講習会の実施経験を1976年の改訂版に盛り込んだものである. 測定機器の使用法などは, 我が国での実情にあわせて書き改め, また実験課題も旧版の51題にわが国で補われた18題を加えて計74課題と充実されている. しかし本の体裁一本文を見開き左頁に, 図表は右頁に配列し, 実習課題ごとに改頁する一は原版に忠実にならつて使いやすいものになつている. 理論編 (134頁)→実験編 (189頁) と続く内容と実験課題数の概要は次のとおりである.

1. 材料/腐食媒体からなる腐食系
 - 1.1 材料 (実験課題数4), 1.2 腐食媒体

2. 腐食の基礎過程

2.1 現象論 (課題数5), 2.2 金属腐食の電気化学的機構 (課題数6), 2.3 高温ガス中における金属腐食の機構 (課題数4), 2.4 腐食と機械的応力, 2.5 合成樹脂の腐食と劣化

3. 腐食試験

3.1 化学的試験 (課題数10), 3.2 電気化学的試験 (課題数10), 3.3 機械的試験法 (課題数11), 3.4 非破壊検査による腐食損傷の検出

4. 防食

4.1 被膜 (課題数8), 4.2 電気化学的防食法 (課題数3), 4.3 インヒビタ (課題数3)

5. 事故調査・対策

5.1 腐食環境解析 (課題数3), 5.2 素材および腐食生成物の分析 (課題数2), 5.3 応力測定 (課題数3), 5.4 フラクトグラフィ (課題数2)

DECHEMA テキストは, 腐食・防食分野の広範囲にわたる実際の問題を費用と時間との制約のもとで行う実験室内実習テーマとして巧みに取り入れていることに定評がある. このような本書は, 大学・高専等の実験担当者に直接参考になるほか, 企業の現場で新たに直面した問題解決のよい案内にもなる. (辻川茂男)

A4判 327 ページ 定価 10,000 円 (送料を含む)
昭和 59 年 3 月 日本材料学会発行